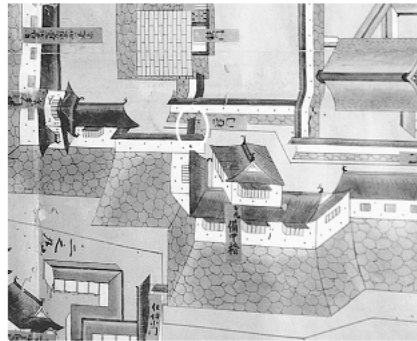


先月号では、津山城の土塀の構造について説明しました。今回は本丸内にあった五番門について検討してみます。

かつて本丸には天守や櫓・本丸御殿など数多くの建物が林立し、また各所に大小様々な門が存在していました。それらの門のうち、備中櫓の北側にあり、天守曲輪と本丸を区画する役割を持っていたのが五番門です（左図参照）。



▲備中櫓(中央)の左上に見える小さい門が五番門

まず、この五番門がどのような形式の門であったのかを検討してみます。

絵図では瓦葺きの門として描かれており、注記には「冠(木)門」とあります。通常「冠木門」は屋根がない門を指すのですが、江戸時代においては瓦葺きの門も含めて「冠木門」と総称していたようです。ちなみに発掘調査でも主柱と控柱の痕跡が発見されていますので(冠木門には一般的に控柱がない)、この門はいわゆる「冠木門」ではなく、高麗門あるいは薬医門であったようです。

以上により、五番門は「主柱と控柱を持つ瓦葺きの薬医門あるいは高麗門」形式であることが推定できました。さらに別の絵図の注記には「五番

# 津山城百聞録

## ～津山城五番門～

御門「両扉クグリ」と記載されています。この記載からは2枚扉の両開きで、片側の扉に「潜り戸」が付けられていたことが推定できます。

さらに規模については絵図には「石垣の間一間半」とあり、発掘調査での実測値3m弱とほぼ一致します。また、主柱と控柱との間隔は発掘の結果4尺5寸(約135cm)という値であることがわかりました。

このように既存の史料や発掘調査の成果から、五番門の形式や平面的な規模は、かなり正確に判明します。しかし残念ながら古写真がありませんので、立面の形を含め、これ以上の具体的な形は不明といわざるを得ません。

実はこの五番門の部分には、今年度事業で管理用の門を造ることになっています。これは純粹に備中櫓管理用の門なので、金属製のゲートでも構わないのですが、せっかく備中櫓のそばに造るのですからできれば木製の門を、ということと協議を重ねてきました。しかしながら前述のように古写真がなく、絵図面も「絵」という性格上その正確性に限界があるため、「復元的な門」を造ることとは不可能であるという結論に達しました。

五番門の位置には、景観に配慮した「復元」ではない「木製の管理門」が建てられる予定です。

ちなみに本丸から天守曲輪に入る門は2か所あり、南側がこの五番門であり、北側に八番門があります。この八番門は絵図では櫓門として描かれており、さらにその外側(東側)には塀と高麗門によつて柵形を形成しており、厳重な防備を施しています。よつて、この八番門が天守曲輪への正式な入り口であり、五番門はその規模からも、「通用門」的な扱いであったものと考えられます。

### 5月中のひとの動き

人口	111,376人(前月比0)
男	53,153人(同△2)
女	58,223人(同+2)
世帯	42,753世帯(同+27)
転入	271人
転出	279人
出生	103人
死亡	95人

(6月1日現在)

PRINTE WITH SOY INK  
R100  
広報つやまは、環境保護のため古紙配合率100%再生紙、大豆油インキを使用しています。読み終えた後はリサイクルにご協力ください

### つぶやき 編集室

クール・ヒズで暑さの感じ方がいくらか和らぎました。職場のエアコンも28度以上でかけるなら、いっそ扇風機の方が。家でもクーラーを止めて、みようかな。あと風鈴も。(鉄)

今年各地域で特色ある夏祭りが開催されますね。去年遊びに行った塩手池花火大会では、美しさに見とれながらも、頭の片隅で「水中花火を写真に撮るのは難しそう」と感じたものです。がんばらなくては。(e)

祭りはハシの日。昔から人はこれらの差を楽しみ、次への活力としていました。だから今でも夏の祭りやビールはハシの真骨頂！仕事、仕事の毎日から解放され、小さい音楽でも聴きながらパーティーといこう！(X)

つやま 広報

7月

平成17年 2005 609号

編集・発行

津山市企画部行政広報室(市役所3階)  
〒708-8501 岡山県津山市山北520番地  
☎0868-23-2111(代) ☎0868-32-2152  
Eメール kouhou@city.tsuyama.okayama.jp  
☆広報つやまはホームページで閲覧できます  
<http://www.city.tsuyama.okayama.jp/>

発行日 毎月10日

印刷 株式会社 津山朝日新聞社印刷部